

magazine kobekko
march
1968 no, 83

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

3

19150150



早春の装いに気品ある輝きをそえる
ミキモトの装身具



御木本真珠店

神戸=三の宮-神戸国際会館

TEL. 22-0062

大阪支店=堂島-新大ビル

TEL. 363-0247

京都=ミキモトパール京都(新門前通り)

都ホテル・京都ホテル・京都国際ホテル

大阪=阪神・高島屋・松坂屋

本店=東京-銀座四丁目

★この度ミキモトでは地方のお客様の
ご便宜を計るために通信販売を始めました
カタログのご請求は東京都中央区銀座4の2

御木本真珠店メールオーダー係まで

お申しつけ下さい

© 9168-3

透明な空と

透明な海の中から

なにかを引揚げようと

糸を垂れている

●絵+詩——津高和一●

W. W. Takeda, 68



美しさを創るオートクチュール

アスター ニュートン

神戸トアロード TEL (33) 1818

大阪阪神 TEL(361) 1201



Goto

神戸っ子 '68

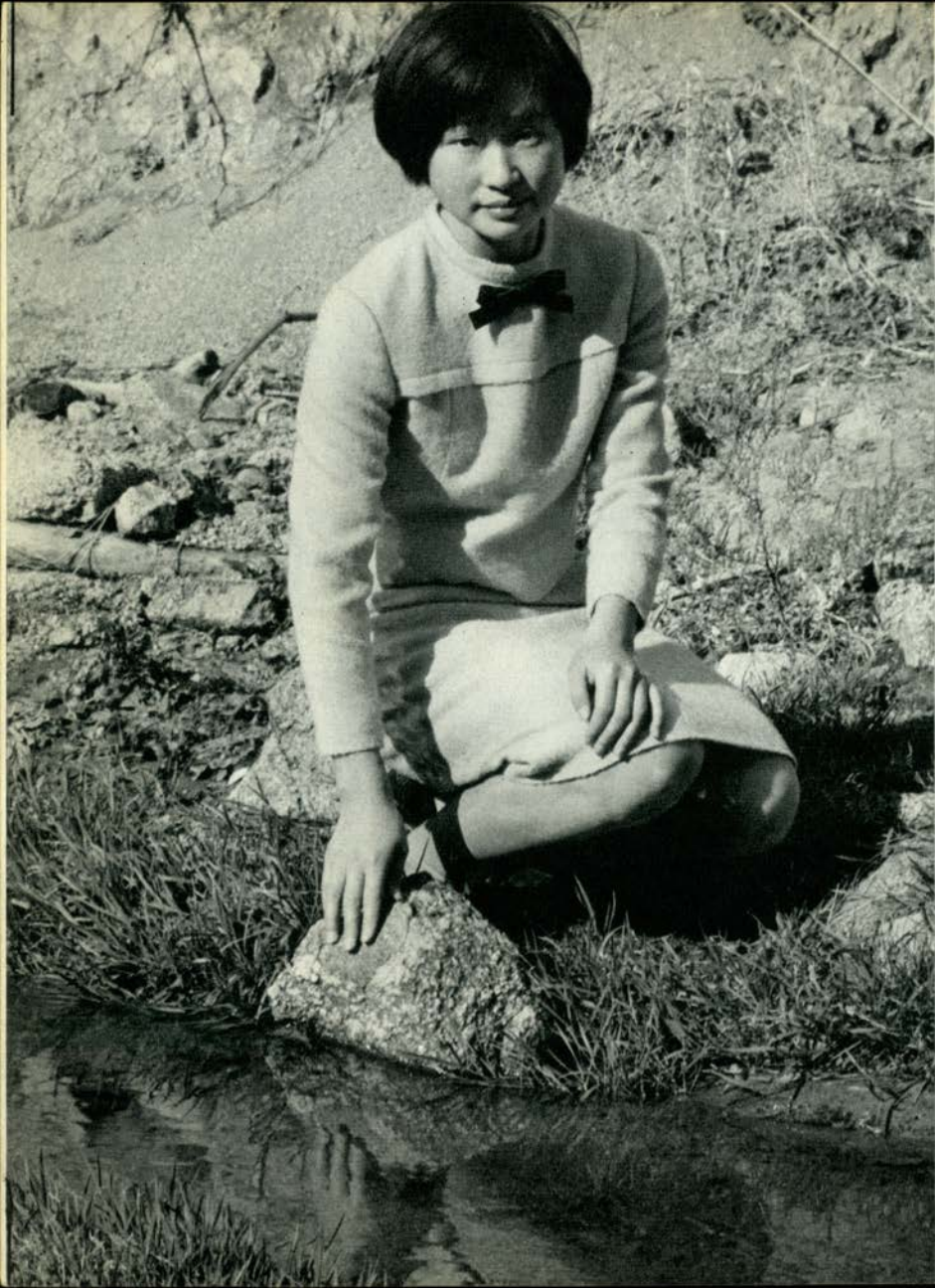
中西友子

（神戸ファイギニア・スケート・クラブ会員）

カメラ・奈良勝彦

美しく伸びた肢体が回転し、エッジが鋭く氷をけずる時、銀盤上に、若いリズムが躍動し、華麗でダイナミックな演技が展開する。
帯広で開かれた第二十三回国体スケート高校女子ファイギニアで六位の成績を収めた中西友子さんは、山手女子高校三年生の、明るく、ポイッシュな感じのお嬢さんである。現在、大学受験を控え、学業との両立が一番の悩みだが、毎日、早朝と夕刻との二回、じつくり練習に勤んでいる。いやな時もありますけど、いったんリンクに入れば平気です。それに、何か新しいものができるとなると、とてうれしい。と話を聞かせる。これまで、全日本ジュニア規定一位、総合三位、インタール杯、国体三回出場。
昭和二十五年、魚崎の生まれ。小さい時から、バレエや踊りが好きだったそうで、スケートを本格的にやり始めたのは中学二年の時。得意な学科は英語、趣味はお料理という中西さんは、淡い水色のワンピースのよく似合う、家庭的な、やさしいお嬢さんでもある。理想の男性は？「サア、まだ考えていません。」と目をパチクリさせて、かわいく笑った。ファイギニア・スケート界のホープ、中西友子さんの今後の活躍が楽しみだ。

（写真左・山手高校西側の小川のほとりにて 右・聚楽館スケート・リンクにて）



TASAKI PEARLS



●美の伝統自然の神秘はタサキパールの輝きです



田 崎 真 珠

本 社・神戸市葺合区旗塚通6-9
三 宮 店・神戸新聞会館秀品店内
銀 座 店・東京都中央区銀座西6-5
パールファーム・溜池電停前(ショールーム)
ヒルトン店・東京ヒルトンホテル内
オータニ店・ホテル・ニューオータニ内
札 幌 店・札幌パークホテル内

あなたの真珠はパール・マークのお店で
日本真珠小売店協会加盟店



神戸っ子 '68

……奥田政弘

（ガス溶接日本一・川崎重工機械事業部製缶工場工作課勤務）

カメラ・奈良勝彦

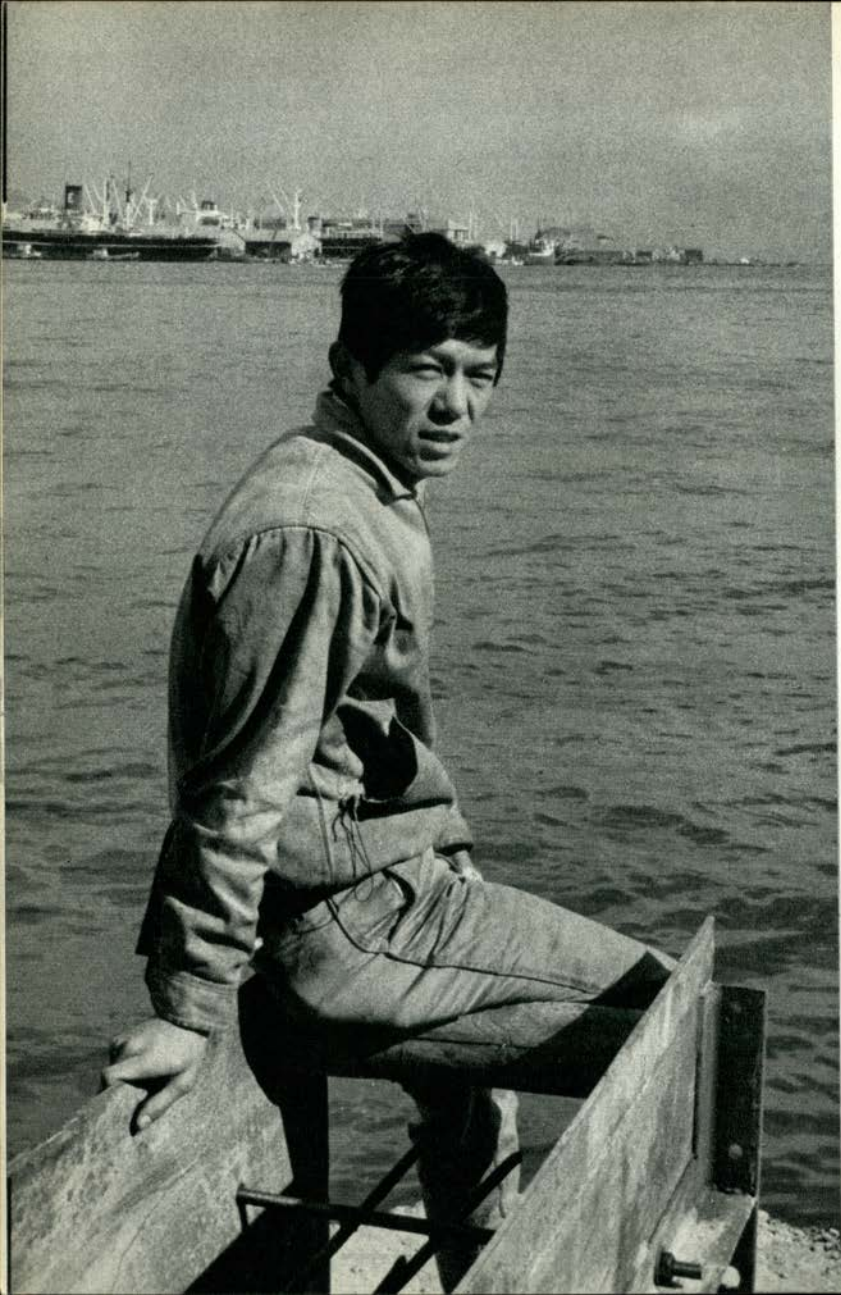
やわらかい春の陽ざしをいっばいにあびた海面。その穏やかな表情が時折きらめく。ある日の午後、岸壁に出て、一人静かに遠くを見る奥田政弘氏。

第十三回全日本溶接競技大会（財団法人日本溶接協会主催）のガス溶接工日本一に選ばれた奥田政弘氏は、色の白い、物静かな青年である。こうして、ほくが……と不審そうに首をかしげる。日本一。という腕をもちながら、それを全然意識しない、そんな気取りのなさがよい。

昭和十七年、兵庫区永沢町の生まれという生っ粋の神戸っ子。兵庫中学卒業後、養成工として川崎重工に入社して、今年で十年目というベテラン。NK一級、JIS四種一級の資格をもつ。現在は、神戸機械事業部製缶工場工作課に勤務し、ボイラーの溶接に従事している。青く、赤く光るアセチレンガスの焰、人の目には見えない細部にわたっての精緻な神経と根気のある作業の連続だ。

二児の父でもある奥田政弘氏は、「これからは、できるだけ本を読み、知識を深めていきたい」と、技術の修得だけでなく、あらゆる面に意欲を燃やしていた。

（写真左・川崎重工岸壁にて 右・製缶工場にて）



あなたの美しいヘアスタイルと

花嫁をつくる

《エリザベス》の三宮店誕生!



美容室 エリザベス

畑尾美久子

本店美容室 神戸市生田区下山手通り2丁目31ノ1番地
生田神社前新河南ビル2階
電話 ☎ 8894番

婚礼衣裳部 神戸市生田区北長狭通り1丁目17番地
生田神社前(元本店美容室)
電話 ☎ 3258番

三宮店 神戸市生田区三宮町2丁目31番地
三上ビル3階(前マキシン美容室)
電話 ☎ 4917番

芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅前
電話 ☎ 4067番

西宮店 西宮市南昭和町阪急西宮マンション北館1階
美容担当(専属)結婚式場
生田神社・オリエンタルホテル・阪急六甲山ホテル
住吉学園・蘇州園他

東京初代遠藤波津子直流
「正しい化粧と着付」研究会
会場(兵庫県私学総連合金館内)



着付・畑尾美久子 カメラ・杉尾友士郎



ある集い
風群文学会

十二畳余の和室、長いテーブルを囲み、熱っぽい雰囲気の中で真剣な討論がかわされる神戸のユニークな同人「風群文学会」は、各自の創作を雑誌「風群」に発表するとともに、月一回の例会をもってお互いの作品の批評をし合う内容はテーマ、構成、描写法など広範囲にわたるもので、厳しい意見が飛びかう充実した数時間である。

出席者は、多数の女性を含めて、年令、職業も多種多様結成以来丸一年の間に、早くも直木賞候補、「文学界」転載などの同人を生んだ、きわめて質の高い集まりである。今年もまた、中央文壇に新風を吹き込む縦横無尽な活躍が期待される。

写真は前列左から、中村稔（公務員）、原田八束（作家）、松田達郎（建築家）、川井田弘子（押絵）、太田久子（画家）、越智満子（画家）。

二列目左から、大上博文（学生）、浅田修（会社員）、大橋友昭（商店主）、末広亮（商店主）藤本一義（公務員）、三嶋成子（学生）、石見真輝子（主婦）。三列目左から、河本旅夫（会社員）、中島徳恵（美容院経営）高橋寿子（看護婦）、佐藤知子（主婦）、宮下知子（主婦）、小原美奈子（主婦）、入野晴美教師、岩崎富喜子（会社員）、御厨千鶴子（会社員）、松村健教師。

四列目左から、古賀忠昭（会社員）、岡谷洋佑（会社員）、岩淵欽哉（会社員）、平川竜（会社員）——中小企業労使センターにて

嫁ぐ佳き日のため真心こめた数百種



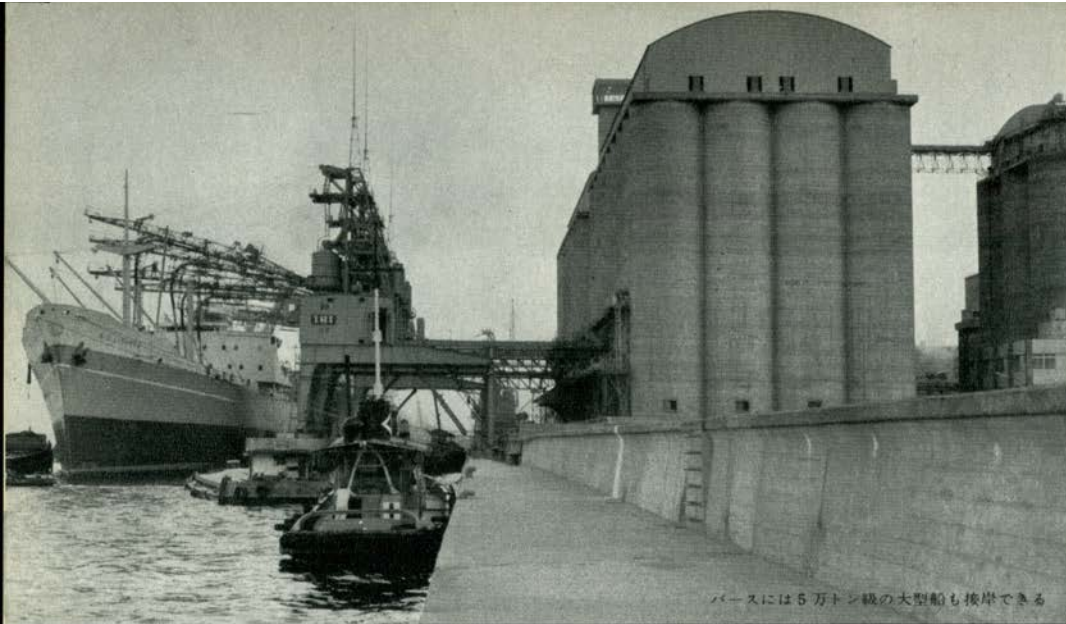
新しい生活へのスタートに、インテルナきたむらの数々のご婚礼家具を！
 地上8階、地下1階の家具の殿堂。その4、5、7階いっぱいに取り揃えました。
 お嬢さまのお好み、ご予算に合わせて、センスと格調あるご婚礼家具をお選び下さい。

★家具を作って70年——



神戸市生田区元町本通4丁目<35>-0671(代)
 (もとカネボウショールームあと)

8F	特別展示場
7F	ご婚礼家具・座敷机
6F	一般和洋家具
5F	ご婚礼家具・鏡台
4F	ご婚礼家具・鏡台
3F	ベッド・応接セット・ルームアクセサリ
2F	応接セット・じゅうたん
1F	リビングフロア・コンサルティングルーム
B1	地下駐車場



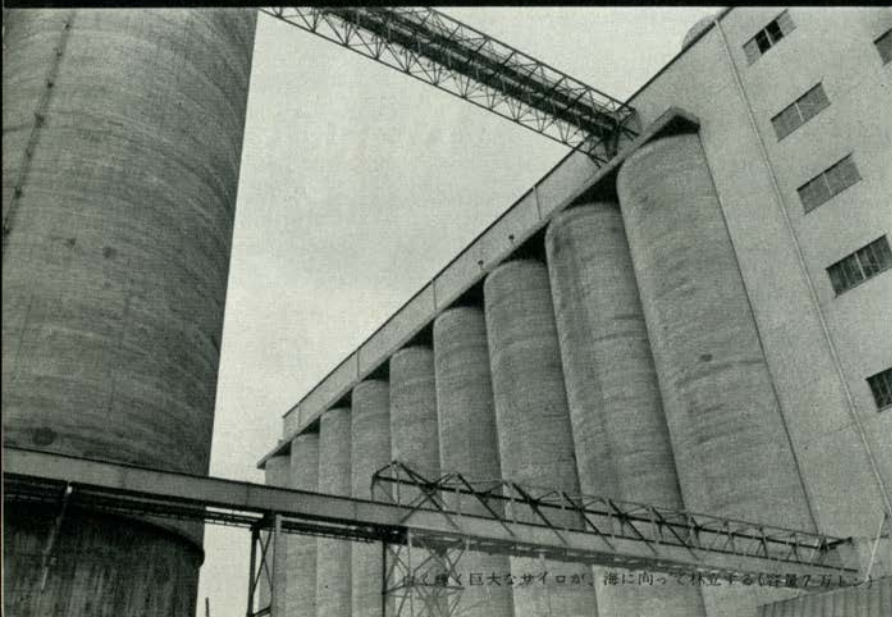
バースには5万トン級の大型船も接岸できる

★神戸港東部埋立地第二工区の
食品コンビナート本格操業へ

昭和産業神戸食品コンビナートに
続き、1月25日東灘食品コンビナ
ートの穀物サイロ基地(東洋綿花)
が竣工した。
食品原料とその流通経費節約をね
らう食品コンビナートは、神戸港
東部の埋立地に続々と誕生。
すでに一部で本格操業が開始され、
その成果が期待されている。



コウベ★スナップ



高く聳る巨大なサイロが、海に向かって林立する(容量7万トン)

(右上) ニューマチックアンローダー3基で船から吸い上げられ
穀物は、工場内とはしけへ二分される

(右下) 後方高台からみた食品コンビナート全景





港の見えるレストラン

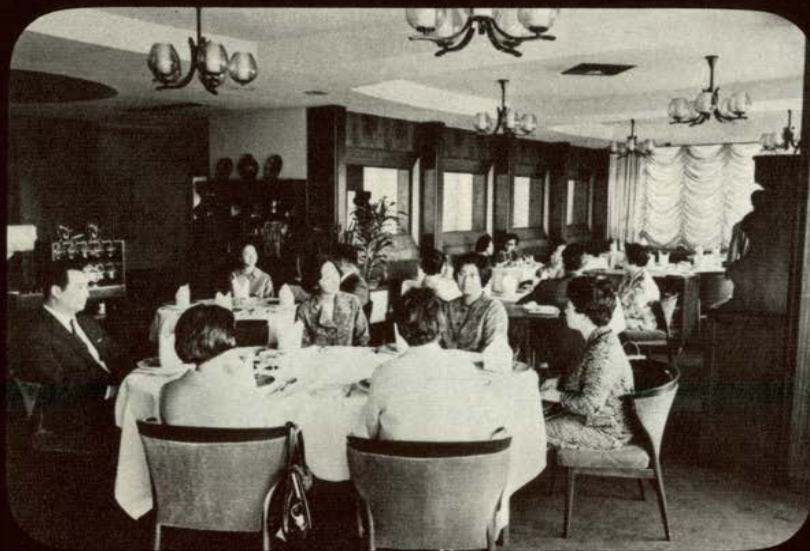
*

KITANO CLUB

Restaurant

CORAL KITANO

北野町 Tel. 23-2251



KITANO CLUB JUNIOR

RESTAURANT

Blanc de Blanc

ブラン ドゥ ブラン

Tel. 32-1455 京町77-1 神栄ビル



表紙／小磯良平

< 3 月 号 目 次 >

これは神戸を愛する人々の手帳です。
あなたのくらしに楽しい夢をおくる。神戸
を訪れる人々にはやさしい道しるべ、これは
神戸っ子の手帳です。

- 1—SECOND COVER／津高和一
3—グラビア／神戸っ子'68
撮影・奈良 勝彦
⑤中西 友子 ⑥奥田 政弘
7—ある集い／「風群」文学会
8—神戸スナップ／食品コンビナート
13—わたしの意見／畑 専一郎
15—随想三題 ①ある疑い／小西保文
②内と外／星野富士子
③神戸を愛する／土屋幹男
18—ある集い／その足あと・松田 達郎
21—随想／神戸のまちと西欧のまち・則武保夫
大正生まれ・原田八束
ザルツブルクの想い出・笹田 和子
29—神戸っ子放談・石原慎太郎氏を囲んで
34—経済ポケットジャーナル
37—ダイナミック神戸(3)小泉製麻の巻
春木一夫・たかはしもう
43—技術ジャーナル／諸岡博熊
44—神戸のアーバンデザイン／水谷頼介＋
神戸のモダンリビング／チーム UR
46—CINEMA／淀川長治
50—動物園飼育日記②／亀井一成
54—神戸の集いから
56—PORT LOOK／福富芳美
65—神戸カメラルポ／ある日、ある時
71—特集座談会／戦後世代の生活と意見
三宮のど真中でっかい広場をノ
司会／田中国夫
82—リラックスインタビュー(3)
きく人 向井 修二
86—神戸遊戯誌⑤スキー(2)／青木 重雄
88—神戸うまいもん巡礼⑥／赤尾 兜子
90—マダム・ド・コウベ／大牧暁子さんの巻
竹田洋太郎
95—神戸百店会だより
96—ポケットジャーナル
100—連載読物第六回・非悪童物語／足立巻一
110—連載小説 第25回／兵庫の女
武田繁太郎
116—グラビア・ダイナミック神戸
119—グラビア・こうべろまん(3)
文・陳 舜臣 カメラ・緒方しげを
カメラ／米田 定蔵
レイアウト・カット／港野 千穂



*世界で最も名誉
ある時計ロンジン



特約店



美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL 33-1798

三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL 33-8798

ひな祭り

■3月3日



友だちを集めてのひなまつりパーティー
楽しさをますユ-ハイム
デコレーション・ケーキをどうぞ

ドイツ菓子

Fuehrheim's

ユ-ハイム®

ドイツ菓子 ユ-ハイム

本店 神戸市生田区下山手2-31(生田神社前) 電話(33)1694,8063,0067
三宮店 神戸市生田区三宮町3-15(大丸町電器) 電話(33)2101,(39)3808
さんちか店 神戸市三宮地下街スイーツタウン 電話(39)3539
その他有名百貨店にあります



畑 専一郎

〈神戸新聞主筆〉

■ 神戸新聞70周年にあたり
情報提供者は、よき
「求道者」でありたい!

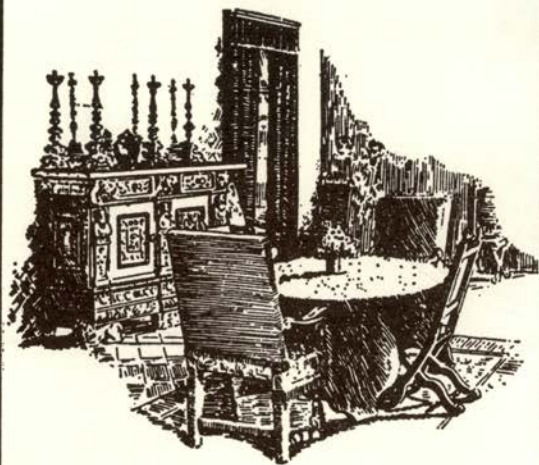
ことし神戸新聞は、創刊七十周年で、ぼく自身神戸新聞につとめて三十年だから、約半分近くなる勘定で、ずいぶんながかったという感慨がわいてくる。こんな長い間新聞記者をしていて、ふと不思議に思うことがある。新聞記者には理想的な人間像が全然ないということだ。

もちろん、新聞記者十傑などという本は出ている。読んでみると、岸田吟香からはじまって福地桜痴、栗木鋤雲などと、例によって例のようにおエラ方の登場である。しかし正直いって、こんなオッサン連中は、奇才の所有者だったり、がめつい経営者だったり、社会運動家だったりで、ぼくにはどうもピンとこない。しかし、これはぼくだけの不満でなしに、新聞記者、情報提供者を業とする人間全般の不満ではなからうか。

もう時代は、情報社会時代へはいっているといってもよいと思うのだが、そうなるの情報提供という職業は、学校の先生以上に教育者としての機能も果たすと予想する。現にマクルーハンが、学校教育以上にテレビが人づくりに大きな力を発揮し、クールメディア人種をつくったと指摘して、世界を大騒ぎさせているじゃないか。

ぼくは、「情報提供者」は、「情報提供屋」と区別し、どんな職業の人間よりも「求道者」でなければならぬと考えている。そして、ひそかに島木健作がそのいいお手本だと思ひ、ぼく自身彼をいまままで道案内者としてきた。十傑なんかのオッサンより、島木健作のほうがずっとよき新聞記者だ、というのがぼくの意見で、この人の満州開拓団を批判した「満州紀行」と、米軍が日本に進駐して浪籍問題を起こしたとき石橋湛山が、「目クソ鼻クソを笑う」という題で書いた東洋経済の巻頭論文を、ぼくの生涯で接しられた言論の二つの秀逸だと評価している。情報社会の立役者に、人間像ひとつ提示されておらんようでは心もとないので、全国の同業者の間に島木健作をPRし、それを灯とすることができるようにしたい。それが、今後のぼくのライフワークだと思っている。

家具・室内装飾・工芸品

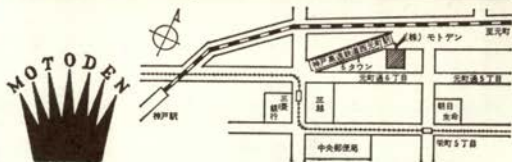


永田良介商店

神戸市生田区三宮町三丁目・大丸前・電話神戸(39) 3737 (代表)

東京店・東急百貨店 日本橋店内1階 03(211)0511
東横店東館7階 03(462)4535

舶来ムード照明の店



株式会社 **モトデン**

本社 ★ 神戸市生田区元町通6丁目26
(電話 (078) 34-4196)

工場 ★ 神戸市葦合区琴緒町1丁目10番地
(電話 (078) 22-8947)

随想三題

ある疑い

小西 保文・絵も

△洋画家・二紀会▽

「男と女を自由に生み分ける法」という見出しのついた婦人雑誌の広告を見たことがあるが、僕は常々、世界中の男と女の数が、ほぼ相半ばしていることに、大いなる興味を持っている。悟性の原理、宇宙の摂理とってしまえばそれまでだが、何かの拍子に、片方だけが断然多くなるということもあり得るのではないか、いつも大体において相半ばするという保証は全くないのではないか、と思った



りする。

また例えば、十円玉でもよい、いわゆる丁か、半か、で何回も何回も繰返したりしたとする。その偶然がやはり、相半ばすると何かの本で読んだことがあるが、偶然にも片方ばかりに片寄ることも、そして無限に続けたとして、遂に両方のバランスがとれずじまいに終ることも、或は、あっても良いのではないか。相半ばすることにとふと、疑惑を持ったり、不気味なものを感じたりもする(十円玉で、一度丁、半、を根気よくやって見たいが、そんな閑がない)。

その外、僕をして片時も促えてはなさないのは、自分は一体何故に絵を描くのかということである。自分を押し出したい、沢山の

人に認めて貰いたい、出来れば、それが売れてお金も沢山手に入りたい、と想っていることも事実だが(ひよっとすると、それが全部ではなからうか、と疑ってもみる)それだけでもなさそうである。

しかしてその営みは、芸術という言葉のもつ、莊重で、高邁な(この概念は、改めて考え直したい)ものではなくて、存在の確証を得ることへの、ひそやかな行為ではなからうかと思う。絵を描き出した始めから今も少しも変りない気持に、存在に対する憧れのようなものがあることを思うとき、自分の深層心理の奥底での、存在に対する漠たる不安感(それは、ひよっとしたら、直感的に言って人並み以上の劣等感と密接につながっている神経症のようなものかも知れない)が、生理的に絵を描かせているのではなからうか。とすれば、絵を描く行為は、社会生活での己のバランスを保って行くこととするうえで、己自身の欠かせぬ営みであって、生活そのものであるという仮説も成り立つ。人間は皆それぞれ、バランスを得るために、己の欠陥を充足するために、無意識の中に行為し、生活しているのではなからうか。

そこまで考えたら、十円玉の

丁、半、が相半ばするということも、偶然が偶然でない目に見えぬ力が働いているような気もしてくる。「将来、芸術が宗教にとつて変わるようになるかも知れぬ」といったニーチェの言葉を思い出す。僕が勝手に、彼の言葉を己自身の都合の良いように多分解釈しているのだから、やはり何となく気になる言葉だ。人間は、宇宙の摂理の中にやはり生かされている存在だろうと思うが、僕はやっぱり、丁、半、相半ばするか否かを見とどけたいという衝動を押さえることが出来ない。

内と外

星野富士子

△元神戸アメリカ文化センター顧問▽

「内と外」私共は心の中で無意識のうちこの両者を何か全く別ものとして区別してしまっているのではないでしょうか。心の内と外、家の内と外、そして国の内と外、つまりこれは日本人対外国人の關係についてもいえることだと思います。内を知るためには外を広く知り、外を正しく知るためには、まず内をしっかりと見極めておかねばなりません。本当の国際人とは、この内と外の知識が自然にとけ合い、両者を区別せずに

生活できる人と云えましょう。

仕事の關係から、外国人、特にアメリカ人と接することの多い私は、親日家として知られるある親しいアメリカ人から「日本人ほど外国人を差別する国民はない」という意外な言葉を聞かされたことがあります。日本人にとって、外国人はいままでたつても大切な「外人」であり、表面のきれいごとを見せられるだけで、日本人の内にはちんちんさせてもらえないというのです。「差別」というと、人間としての権利の剥奪虐待ということが頭に浮びますが、考えてみますと、善意から出たものであっても、人を自分達と違うものとして「区別」することは、精神的差別といえるのかもしれない。

外国人に対してだけでなく、日本人はとかく内と外の間垣根を作りたがるようです。外面的な第一印象を重んじすぎるためでしょうか。外国に比べて家庭で客をもてなすことが少ないのもこの一つであらわれではないかと思えます。

三年前、私が三十年振りでアメリカを訪れた時のこと。ワシントン・D・Cの郊外に住む古くからの友人であるアメリカ人夫妻に夕食に招かれました。彼等には、中学二年の女の子と、小学校五年になる男の子があり、子供たちの高い教

育費や、新しく買った家の月賦を支払うため、夫人も近所の法律事務所に勤めていました。旅程の都合で、私が週末にはワシントンを発たなければならなかったため、週日の忙しい時間をさいての招待だったわけですね。当日は、ご主人が仕事の帰りに車で私を迎えにこられ、その間夫人は五時半に仕事から帰ると子供たちに手伝わせて来客の準備。行ってみますと、私と、当時ワシントン・D・Cに留学していた娘の二人だけではない、会うひまはないものとあきらめていた三組の私の親しくしていた友人夫妻まで招待してくれているのです。夫人の簡単ながら心のこもった手料理、くつろいだ雰囲気、それに加えて予期していなかった旧友たちとの再会の喜びは、旅先であるだけに一層心にしみるものでした。時間も忘れて話しこみ、帰りにお皿洗いのお手伝いもせずにとお詫びしますと、子供たち二人ですっかり片付けてくれているから心配するなといわれ、家族そろっての温いおもてなしにすっかり感激したものでした。

日本でも、若い人たちの間では、だんだんとこのような習慣がとりいれられはじめているようですが、国際親善のためには、家庭での飾り気のないおもてなしが何よ

りも相手の心をあたため、友情を培う温床となるのです。歴史の古い日本には、外国人に紹介できる多くの優れた文化があります。その文化が、単に形式的にはなく、日常生活を通しての人と人との真の心の触れ合いから、自然に外国人の心に受けとめられたなら、その底にひそむ「日本のこころ」に対してもっと深い理解が生まれるのではないのでしょうか。

神戸を愛する

土屋 幹男

△写真家△

関西学院の学生時代、三度海外旅行をした私は、船が神戸港へ近づき、和田岬が見え始めると嬉しさで涙を出して喜んだものである。たのしい旅行であるはずなのに、ふと思いつく神戸への郷愁がたち切れなかった感情が一度に堰をきってしまつたのであろう。

それは、美しい緑の山が近く、青い海に面して、風土に恵まれ、食べ物は日本一の「美味いところ」で安い。それに神戸人のもっているセンスのよさ。ドロくさくもなく気どりのないシャレた女の子のよさ。さまざまなくさんな要素が一体となって、神戸を不思議な

甘い若々しい街にしているからである。

戦前、神戸にはハイクラスなたまり場が三つあった。元町の本庄・大丸前ソシヤルダンスホール入口のブラジレイロ・阪急フルーツパーラーがそれである。終戦と同時にシンガポールから無人島に追いやられた旧軍中尉の私は、捕虜生活十カ月、懐しい神戸の街・味・人を思い出し、帰りたいくて無性に泣いたものである。

私は復員して神戸へ帰れたら、時たま三宮へ出てきた年輩の方々、一杯の美味しいコーヒを静かに味わって頂けるような、そしてサラリーマンやお嬢さん、BGの方、学生さんたちがグループで語ったりあるいはデートをし、恋をして人生の思い出となるような場所を提供し得る雰囲気のお店をやりたいて考えて開いたのが今の喫茶。(注：ウイルキンソン)昔は加納町のパー街は日本でも有名な名所であり、各ホールのダンサーとともに、パーの子も一流で東京銀座裏からもかせぎに来ていて、神戸が一番住みよいとそのまま神戸に定着した人も多い。しかし戦後パー街粗製乱造のせいかどうか、

いわゆる「神戸っ子」らしい一流のパーの女の子が少なくなり、三宮もきたなっばい感じがする。

写真界においても、神戸は日本で大阪に次ぐ二番目に写真愛好者の多い、写真の盛んな都市である。これはアマチュア写真家の精進と努力もさることながら、初心の時から、いろいろ勉強に必要な被写体の素材が神戸に豊富であるという点でもあろう。舞子より六甲・宝塚そしてメリケン波止場の抒情・港・観光船・移民船の表情・山手北野町の風物および外人の子供達。六甲山には三十分、港に五分、山手に五分、こんな神戸で写真をはじめの方は幸福であると同時に、若いカメラマンは、若い感情と感覚で、新しいカメラワークを駆使してただ今刻々と移り変わってゆく神戸を写して頂きたいと思う。新しい高速道路を入れて、従来と異った視角を狙う中にも、外人や、ミニスカートの若い女の子をうまく対照的に画面の前景にもってきてはいかが。

自由闊達な気風は昔から「神戸っ子」の特徴であり、進歩と前進へのインターチェンジであるから神戸に多くの写真家が生まれたのではなからうか。だから、中だるみのなきようあとに続いて若い立派な作家が芽ばえて、このよき風土を愛し、写して頂きたいと思う。



★ある集い★その足あと

風群文学会

松田 達郎 主宰

△グラフィア7頁参照▽

- 文学は日常生活の中にある。
- 文学することは決して他のことに優越するものではない。
- 限定された人間による同人誌の占有は許されない。
- すべての場合キャリアを問題にしない。
- 同人・会員は共に平等の権利と義務を持つ。
- 新人に自由に発表の場を与え

る。

●同人誌の維持発展のため、同人誌の精神を侵さない範囲における経済収入を図る。

このようなスローガンを掲げて、昭和四十二年一月十五日、松原新一、浅田修、河本旅夫、平川竜、松田達郎ら十六名の者によって「風群」は結成発足した。風群という誌名も全員が持寄った名称の中から、投票によって選んだものであり、最年少の堀江孝雄が出したものである。

四月一日、創刊号を出すときには、早くも三十四名にふくれ上がり、二号、八月一日では五十一名、三号、十一月一日では五十九名に達したことは、前掲の主旨がはじめて文学する人々の共感を呼んだようであり、現在では神戸でいちばん多人数の同人誌になってしまったが、マンモス化の弊害は全くなく、まだまだ増加の傾向にあるし、それでいいと思っっている。

●量の中から質を求める。
という主張も見事に的中して、

河本旅夫「真夏の旅」(創刊号)は異色問題作となり、原田八回「風塵」(二号)は第五十八回(昭和四十二年下半期)直木賞候補となり、稲垣麻里「序章」(三号)は「文学界新年号」に同人雑誌推薦作として転載され、同月の

「小説現代」に彼女は「蠢きながら」を発表して、全くの新人として万丈の気を吐いたのである。

創刊半年、三号までで投げた「風群」の波紋はたしかに大きかったようである。だが、われわれは結果として中央に指向しただけであって、決してそれを最初からの目的とせず、相も変わらず自己に孤独に対決する姿勢を堅持していくことを、確認し合っているのである。

平均年齢二十七・八歳、女性二十名、初心者多数という、文学ずれしていない清潔な集団であるのが、何よりの特色であるし、今年もおそらく、日本文壇に刺戟を与える活動と収穫を物する同人誌であることを、風群は自信をもって宣言することが出来る豊かさを持っているのである。

発行所 神戸市生田区下山手通

四丁目四番地・松田方

・電話☎八九二番

(写真は、中小企業労使センターでの例会風景)

風群文学会、3月例会

3月24日(日)午後1時より5時迄

場所/生田区下山手通4丁目57

兵庫県中小企業労使センタ

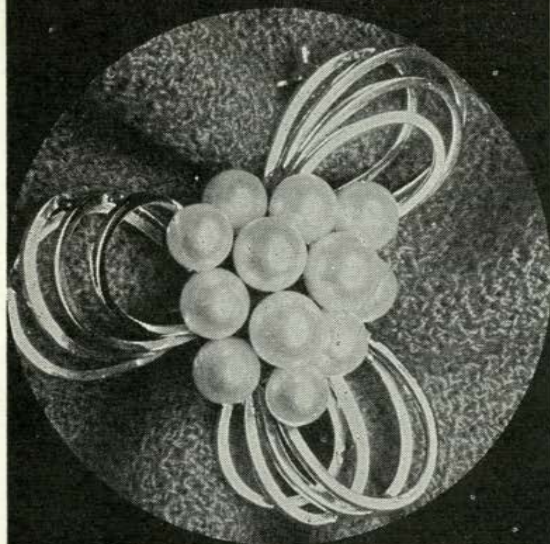
13階和室

会費・一人一〇〇円

議題・4号発行打合せその他

Kitamura Pearls

世界の人々に愛される
キタムラパール

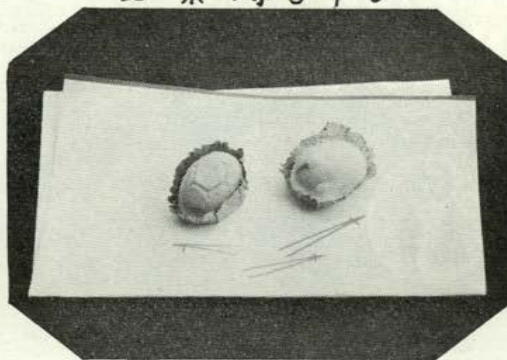


北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL ③③ 0072

東京：スキヤ橋店 TEL<571>8032

銘菓 縁むすび



鶴は千年 亀は万年の
長寿をたもつと昔から
云われています
このお菓子は不老長寿の
木の实と云われているアーモンドを
原料として造ったおめでたい
ヒロタの銘菓「縁むすび」です
ご結婚式その他お祝事に広く
使われて喜ばれております

★洋菓子の

ヒロタ

元町店 (33)2340 三宮店 (32)1227 さんちか店 (39)3474 秀品店 (23)2312

晴れの日の

ウェディングケーキ



北欧の銘菓

ユーハイム コンフェクト

本社・工場及熊内店/神戸市灘合区熊内町1(市立美術館東隣) TEL22-1164
三宮センター店/神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・バーラー) TEL33-2421
生田店/神戸三宮生田筋(階上喫茶室) TEL33-7343・0156
さんちか店/神戸三宮地下街スイーツタウン TEL39-3558



- *ランジェリー
- *ブラウス
- *セーター
- *ワンピース
- *スーツ

Giya スギヤ

トア・ロード市電大丸電停前
TEL (33) 3 4 3 6
六甲店・阪急六甲駅
TEL (87) 2 7 3 1(呼)